

会議録

会議の名称	令和3年度 第5回加西市総合政策審議会
開催日時	令和3年10月1日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	加西市役所 5階大会議室
議長の氏名（会長 杉山 武志）	
出席及び欠席委員の氏名	
<出席委員> ・上田尾 真 ・大野 聖佳 ・久米澤 稔 ・後藤 直樹 ・後藤 政博 ・杉山 武志 ・高木 雄太 ・谷勝 公代 ・辻田 聡信 ・濱本 泰秀 ・山下 光昭 <欠席委員> ・菅原 知美 ・鈴木 忠樹 ・高見 千里 ・中野 重美	
傍聴者の人数	
一般：なし 報道機関：なし	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
・ふるさと創造部長 千石 剛 ・ふるさと創造部人口増政策課長 藤後 靖 ・ふるさと創造部人口増政策課課長補佐 後藤 伸嘉 ・ふるさと創造部人口増政策課係長 岩野 裕之 ・ふるさと創造部人口増政策課主任 千種 健史 ・ふるさと創造課人口増政策課主任 垣谷 直宏 ・ふるさと創造部人口増政策課主事 牛尾 充宏 ・ふるさと創造部人口増政策課まちづくり推進員 小山 映	
1 議事	
(1) 第5次加西市総合計画（実施計画：令和2年度実績）における評価・検証結果への対応について	
(2) 第6次加西市総合計画の評価・検証方法について	
(3) 加西市行財政改革プラン（素案）について	
2 会議資料	
会議次第、出席者名簿、配席図	
資料1～3、参考資料	
3 会議の経過	
⇒別紙「第5回加西市総合政策審議会の経過」のとおり	

(別紙) 第5回加西市総合政策審議会の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
会長	<p>1 開会 <会長あいさつ> ・緊急事態宣言が明けて初日ということで、皆様におかれては非常に忙しい状況の中お集まりいただき感謝申し上げます。 ・本日の審議会は、次年度の評価方法を確定させていく非常に大事な審議会である。 ・いろいろなご意見をいただきながら本日確定させていきたい。</p> <p>2 委員等出席者の紹介</p> <p>3 議事 (1) 第5次加西市総合計画（実施計画：令和2年度実績）における評価・検証結果への対応について （事務局から資料説明）</p>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・施策18の新病院建設に係る産婦人科開設に関しては、近隣市を含めた広域の中で検討する方向と思われ、加西市単独での産婦人科開設は非常に難しい状況にある。 ・病院のあり方検討会の中に単独産婦人科の設置は入っていないが、それにもかかわらず、資料の「新病院建設を好機として病院へ要望していく」というような書き方は、市民に対してメッセージを出しながら実際には産婦人科がないということになるので本末転倒である。 ・病院としては、今の病院より機能は落ちるが、最低限の病院を残すためにコンパクトなものを建てようとしている。そのメッセージをきちんと伝えなければ逆効果になる。 ・ありのままのきちんとした情報開示をするとともに、産む場所がなければ人口が増えないと本気で考えているのであれば、広域連携のところでもっと積極的に、何がなんでも産婦人科を持ってくるということを行政としてどンドン動かないといけない。 ・「好機として」という部分は、不適切な表現であったため「機会として」等修正の方向で考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・過去最少となった令和2年度の出生数190人を受けて、人口増政策課としては、新病院のフロアの一部をお貸しして公設民営で産婦人科を開設してもらう方法や助産院を誘導するなど、何らかの形で子供を市内で産む方法がないか今後も模索していかなければならないと考えている。 ・出産や定期検診に行かれる際に、タクシーを利用して安全に移動していただくような支援をするなど、現状を踏まえた上での方策を検討しているところである。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この文章だけを読むと、病院には頼むが、するかしないかは病院が勝手に決めることだということに任せっきりになっていると感じた。 ・説明にあったようにいろいろな方法を模索しながら、産婦人科がなくても不便がないような代替案を考えながらやっていくということで良いのではないかと。 ・このままの表現であれば、産婦人科がなかったら困るので病院に頼んで作ります。できなければ病院が悪いような話になってしまうので、それは違うと思った。
会長 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・行政としての立場は理解できるが、現実を見据えた表現が望ましい。 ・病院の回答に関しては、市民からの要望に対して模範的な答弁であると感じる。 ・実現できる可能性があるのであれば努力することが非常に大事なことである。 ・例えば、5万人都市再生というキャッチフレーズがあるが、実際には無理だと皆が思っている。現実をしっかり見つめながらできることを書くべきである。 ・努力目標として頑張ればできるというものであれば良いが、産婦人科については広域で取り組むしかないと思われる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・計画というのは、現実にある程度即してということが言われてきているものなので、表現として上手くフィードバックする方向で修正をお願いしたい。
会長	<p>(2) 第6次加西市総合計画の評価・検証方法について （事務局から資料説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施策の評価区分に関して、資料2-1の結果をご覧になった上で、さらに意見や感想があればお願いしたい。 （意見・感想なし）

副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事前意見で一番多かったのも案2の4段階評価であり、また事務局からの提案も4段階評価ということなので、事務局案のとおりA・B・C・Dの4段階評価で次年度以降の評価を進めていくことで合意を諮りたい。 ・良いと思われる方挙手をお願いします。 (全員挙手) ・評価区分に関しては、A・B・C・Dの4段階評価で進めることとする。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・4段階評価に関しては合意だが、評価の目安に関して、経営的視点で普段数字を見ている者からすると70%台の達成率は「目標を大きく下回っている」となるため、事務局案に違和感がある。 ・80%を切るものに関しては「大きく下回っている」という感覚である。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・D評価(目標を大きく下回っている)の目安について、70%以下が良いか、80%以下が良いか皆様の意見を伺いたい。 ・80%以下が適当と思われる方挙手をお願いします。 (5人挙手) ・70%以下が適当と思われる方 (2人挙手) ・どちらでも良いという方 (2人挙手)
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を踏まえると80%以下で設定するのが良いのではないかと。 ・目標の精度がそこまで高くないので、民間の目標とは少し色合いが違うと思う。 ・結局C評価が全然つかないということになりかねないのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・B評価(ほぼ目標を達成)の目安が90~110%は少し幅が大きいので、95~105%くらいが良いのではないかと。 ・仮にD評価(目標を大きく下回った)を80%以下とした場合に、BやCの評価の目安も連動して変わってくると思われる。 ・実際にはいろいろな指標があるのですべてを統一することはできない。感覚的なものかもしれないが事務局案の20%程度の幅でみているところを15%の幅とするのか20%程度の幅とするのかご意見をいただきたい。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・上回っている方も105%を超えると上回ったという感覚はある。目標のシビアさという部分もあると思われるが、「ほぼ目標を達成」というと感覚として95%~105%くらいが一般的と思われる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・評価結果としてA評価(目標を上回って達成)もいくらか欲しいというのが行政の本音だと思う。そうすると111%以上というのは達成率としてけっこう厳しい可能性もある。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・目安については、委員の皆様と庁内の評価者との評価基準を合わせるためのものなので、例えばB評価を95~105%として、A評価を106%以上、C評価を80~94%、D評価を79%以下とすることで、副会長のおっしゃる感覚の部分にも近づくとと思われるがどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から再提案いただいた目安で進めるということによろしいか。 (意見なし)
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・審議会としては、A評価に関しては106%以上、B評価に関しては95~105%、C評価に関しては80~94%、D評価に関しては79%以下ということで進めたい。 ・続いて、評価・検証方法について、皆様に審議していただきたい。 ・全体として多かったのは案3の8.5票である。 ・数字の面から見ると案3になるだろうということで事務局案も案3を基軸として、資料2-2を作成している。 ・案3をベースとして示された事務局案で、評価・検証を進めていくということで良いか意見を伺いたいのので挙手をお願いします。 (全員挙手) ・案3で確定ということで進めたい。
会長	<p>(3) 加西市行財政改革プラン(素案)について (事務局から資料説明)</p>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・会社でいうと人件費の部分が一番基になる場所である。 ・全国76自治体と比較した場合に5番目に少ない職員数ということで、非常に少ない人数の中頑張っていると思うが、全体的な数字の感覚がわかりにくい。 ・人口1万人当たりの職員数61.58人というのは、全体的に厳しい数字なのか、それとも前後比較してもそんなに差はないものなのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・また、人口及び産業構造の態様が似通っているとはどういうことか。人口だけではないということか。 ・人口が多くなるほど効率が良いので、1万人当たりの職員数は少なくなってくるという基本的な考え方か。 ・人件費比較の類似団体というのは、大規模、中堅、小規模の都市で必要な人員数は違ってくるものとしてグルーピングしてあるものであり、加西市が入っているのは人口5万人以下の市である。 ・さらに産業構造も考慮したグルーピングとなっており、2次産業、3次産業の人口比を考慮したものとなっている。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・全自治体の上から何番目、人口だけだと何番目、類似団体と比較すると何番目なのか。例えば1万人当たりの全国平均は何人というように比較対象物をいろいろ書いてもらえると判断しやすい。 ・加西市の場合には消防職員が含まれていないが、他市で消防職員を含んでいるとどうなるのか。 ・総合計画でも将来人口は減少していくので、この計画でも人口が減ると職員数を減らすものではないのか。民間では売上げが減ると職員を減らさなければならないという話になるので、計画の中で増減なしという記載について、明らかに人口形態が下降気味になっているときはいかがなものかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・先に類似団体との比較における差のばらつき状況について説明する。 ・類似団体全76団体の中で最も職員数の少ない団体は、愛知県高浜市で人口1万人当たり46.93人、加西市は5番目で61.58人、最も職員数が多いのは岐阜県飛騨市の137.61人でかなり差がある。
副会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・消防職員を含んでいるかどうかは関係ないのか。 ・消防職員が入っているところと入っていないところがある。 (参考)
委員	<p>2019年度の市区職員数ランキングによると、加西市の職員数の人口当たり全国順位は、多い方から数えて全国815市区中553位であり、県内では29市中19位である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政を語る上で「入るを量りて、出ずるを制す」という言葉があるが、入りを量るという点で、市税は横ばいのような感じだが、現在ふるさと納税が非常に好調である。 ・今後についてはずっと縮小のような計画をされているが、ふるさと納税はいったん基金に積立をしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税は、30%が返礼品で20%が運営するサイトへの手数料と郵送費になるため半分が経費である。例えば、令和2年度に53億円という多くの寄付をいただいたが、半分の26億5千万円は経費となる。 ・当該年度の支出に充当している部分もあるので、すべてを使っているわけではないが、必要な経費を除いた分からいくつ支出もしている。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・お金に色はないが、経費を差し引いた分についてはいったん基金には入れているのか。 ・ふるさと応援基金という別の基金を設けて、ふるさと納税で支出に充当しなかった部分（令和2年度分では約16億円）は、財政調整基金などと一緒にせずふるさと応援基金にいったん積み立てるという運用をしている。 ・予算を組む段階では、ふるさと納税がこれだけだとはっきりわかりにくいので、いったんは基金へ置いておくということか。 ・当初予算が組みづらいからというわけではない。今年度でいうと昨年53億円という数字であったが、今年度も年度当初に10億円程度のふるさと納税を当初予算は組んでいる。現状、去年並みに好調に推移しているので、この9月の段階でふるさと納税は20億円程度に増額補正をして順次対応をしているという状況である。 ・貴重な財源なので何にでも充当するというものではなく、寄付者の意向に沿うように適切どころに運用し、残った部分は無駄に使わず次年度に送るといったような運用をしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・何年か前から商品の中に市長のお礼の言葉のハガキが入るようになったが、非常に良いことである。安定的財源ではないが非常にありがたい制度なので、そこにはかなり力を入れてやっていく必要があると思う。 ・職員数に関しては、計画にある職員に加えて会計年度任用職員がいるが、市民から見ると市役所の窓口に座っている人はみんな正職員だと思っている人は多い。個人的には、必要に応じて正職員は確保すべきだと思っている。 ・会計年度任用職員を効率的に上手く活かすのもいいが、やはり正職員の代わりとして不安定雇用者を増やしていくのはいかがなものかと思う。市役所は、加西市内で一番大きな職場であるので、そういう点でも職員の質を上げながら財政を確保していく必要がある。 ・政策とは直接関係ないが、工業団地の市税等はいずれ歳入の方に結びつくべきものだ

事務局	<p>と思うが、まだ時間はかかるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業団地の関係では、加西市産業促進振興条例で企業進出後10年間は固定資産税や水道料金の減免制度がある。 ・来年度から加西南産業団地の進出企業の減免措置が終わる段階に入ってくるので、税収にも先行投資した産業団地政策の恩恵が直に表れてくると思われる。 ・ただ、現在進めているインター周辺産業団地については、同様に振興条例の適用となるため、進出してから当面の間は固定資産税等の減免措置を受けることとなる。その効果は、その先10年後から市税に反映されるものであり、実感するまではタイムラグがある。 ・今回のインター周辺産業団地においては、現場で事業を創業されるので、本社から加西市に一時的に来られる従業員ということではなく地元の雇用あるいは加西市への定住というところに繋がるような従業員体制をもって進出を願いたいということをお願いしている。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・職員数の基準がよくわからない。 ・1万人当たり61.58人で消防職員を除くと言うが病院職員は入っているのか。 ・基準としてこれを維持しようとしているのか。仮に基準とするのであれば、人口が減ってくると職員数を減らさざるを得ないし、増えるとそれに応じて職員数を増やしていくような基準値はあるのか。その辺りがこの計画を見る限り見えない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・人件費については、一般会計ベースでお示ししているため、企業会計である病院事業会計は入っていない。 ・加西市としての基準は、14ページに出ている288人という定員管理の数字のとおりである。市の業務量を踏まえて職員の定数管理を行う上での目標値をお示ししている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・14ページ（4）のふるさと納税の促進の部分で、関係人口の言葉の使い方をより一層深めてもらいたい。昨今、学生も勘違いするようになってきているが、ふるさと納税をすれば関係できているというようなニュアンスが増えつつある。 ・関係人口とは、納税さえしていれば良いという発想のものではなくて、10ページの協創のまちづくりの推進のような場面で使われていくべき交流の言葉である。この辺りをどう加西市が位置付けていくのが非常に気になる点であり、また期待するところである。 ・特に加西市の場合は、兵庫県内でも北播地域の非常に重要な地の利にあるので関係人口というところでは一番ポテンシャルがある。その辺りをぜひ検討してもらいたい。 ・また、将来負担比率が令和2年度46.6%となり、令和7年度は65%、令和12年度60%という数字が入っている。これは実施計画が令和6年度までなので令和5、6年度の段階で見直しがあるという認識で良かったか。その段階で将来負担比率については、もっといい数字が出せるとか、そうした方向性も示唆できる可能性があるということが良いか。
事務局 会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。 ・今のところ将来計画としては65%と出ているが、ひょっとしたら令和7年度はもっといい数字が並んでいる可能性もあるし、それに応じて先ほどの関係人口についても、いろいろな交流人口との関わりの中で職員数の問題に関しても新たな数字が設定されている可能性もある。 ・概ね努力されていると書類を拝見しながら感じているが、より一層良い数字が設定されることを期待して最後のメッセージとしたい。
	<p>4 その他 〔質問・意見なし〕</p>
副会長	<p>5 閉会 ＜副会長あいさつ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新計画を立てその検証方法まで決めたということで、ひとつの仕事をこのメンバーで作ったと思っている。 ・事務局には、毎回我々の想いを文書にしてまとめていただき改めて感謝申し上げる。 ・この審議会を通して決定したものを今後どう進めていくかは行政が中心となるが、根本には協創のまちづくりがあり、我々がインフルエンサーとなり、総合計画の考え方をひとりでも多くの市民に広めながら、また検証もするというような役割を今後もお願いすることになる。 ・いったんは区切りとなるが、今後も引き続きご協力いただくメンバーもたくさんいると思うので協力をお願いして閉会のあいさつとする。